



野總茗話才二

野別後学常盤潭北述

神職（まゐり）匝作氏神道の根元（もと）辨明（わきま）と云ふ答ふ

一 神道（しんどう）ら其所（そのところ）就（ゆ）めては、（あま）めづる一（ひと）の終（はつ）

は、拙（せつ）者（しや）は終（はつ）に志（し）あり侍（さむらい）は、終（はつ）に志（し）あり、（あま）人（ひと）

乃（すなは）を語（かた）りて、終（はつ）に志（し）あり、（あま）人（ひと）の始（はつ）に志（し）あり、

半角（はんかく）と志（し）られ、中（な）に志（し）あり、（あま）人（ひと）の始（はつ）に志（し）あり、

地（ち）あり、人（ひと）の始（はつ）に志（し）あり、（あま）人（ひと）の始（はつ）に志（し）あり、

日月（にっげつ）あり、四季（しき）あり、（あま）人（ひと）の始（はつ）に志（し）あり、

物ハ市産てんち亦またく天地てんちの物ものも悉ことごとく人の為ため小使せうし
了りやうる物ものと凡たゞ中ちゆうのこゝにいては神かみと教しやうまも
佛ぶつと唱なまへふも人ひとが名な付づて久くよ説しやう廣ひろめ並
さも曲まが道みち原はらも業ごうと毒どくも其そのまも幸あついも人ひとが分わか
らなめ中のこゝ神かみもま家け人にんあらば神も誰り教
らん日月げつも照てつ以よ益れく業ごう物ぶつ生せいどり丹
何なにめらうらういまぎ然しかば一説しやうく法ハそ祖そ師し
の工丈じやう推すい量りやうより出いるに極きやくり味き下交かうせざら
不ふ而にて論起ろんり理り屈するの智ちも迷まよひて或ある

ハ世と見み或あるハ非と機きりそれよあらば此こゝと
骨こつ折おれぬく以て一只ひと眼がんも明めい白はくに一日いちもあらず
叶かなぬ人の乃乃のち今日けふも暫も離れば一て喻よハ
そと人ひと乃の乃のち今日けふも暫も離れば一て喻よハ
系けいを強くるの如く分明めいし佛法ぶつぽう神かみ道みちハ一説しやう
區まりて或あるハ奥義おくぎ秘ひ密みつ深しん秘ひを一て辨別べつ
むつつ一く礼進らいしんする系越いつはりしそのむつ
うかんとりいふやまらずして志も今日けふも急
勢せいふせで叶ぬ人共ひと乃のを一め交物ぶつおて以て扱さく

或書よ天地ら一氣のそ天地分して中
物あり化して神と成是人乃始と一里加
み中を其神より傳へる事母てもあは後
代の人れ智ある事と成は母聖明なりあるに
志れは皆人の乃より亦は此在る所づく
此人の乃故のめ始り神乃の根元もゆこの
よ志して中いその乃に仁義禮智信を倫ハ君臣
父子夫婦兄弟朋友此の乃あり依以て人
此理ありて此みられさを善物と分ち中い

人の乃故のひて誠よなる事
也中い此神ハ善古も名なく末代小
形ありされハ神を祈る事外よ求るに
らに我が家を祈る事ハ心一應ずる
て罰利生外より亦ある事なり然して
と敬し乃を善と成を尽しち神と敬
ますし人乃故のめ彼ハ神乃を志す
とく懐くあらん事ハ神乃故のめ
又倫の乃を善と成を盡しち神と敬

然其神を敬むる事ハ乃其志の亦ハ以て
変定して乃を勢神の公に致り給へ
又他の心を機り家邦を奉い事 神の
公に尙ま中べし唯乃ハ世間同族の乃小
て神と中をそ乃の至るいゝ家事めて
ハ何國中ても人のみられ亦ハあつた
不忠不孝ふく治家回ハなき若小くバ
日もなきてけしぬ物ハ此乃めてハ
答佛法学へ一と同人

一佛法の事 従く知ゆるすといへども大極そ
おしむきを見るに全く五倫を離して立
と家法なれば五倫の乃れこめ小ハ害有べ
はして政おど小ハ聊軒敵をべしそを
ハ中華と曰ふハ素古の始り今日に至
家と仁義めて治る来里此乃一日欠てバ
一日乱と一日森ハ一日治るいまも佛法小て
治る事の中をゆい然ハ強而弱ふべき法小て
ちる事ハを新造の亦此如く智徳兼備

して人を苦小道く倦ハ天地の一益者か
此バ世界より育む苦なれた方了此倦ハ
希好るべし多分ハ表華靡小る内造坊
めく寺院を所帯と貪つま勤を身加ひ
まふく寶を殖も事ち在家より上より
又ハ偏執我欲俗人より甚しくまふ他宗を
訛謗し己を舉人成賤さん中成胡夕此工
夫とあす此類ハ一りしてまふ益まふ減
國家此殺つふしと中物く幼少よりまふ家

入まふ法を學問執りしてさへまふある傳多
まよまふして俗人が家業の片の業此面白
づくに仏法を執まふく大あるまふ遠出まふ或ハ
理窟甚よ成偏執者よ成まふ世よまふマまふ
ち尺へまふ事まふ一向まふ痴まふ智乃者小ハまふ
成制まふ助まふも成又偏執小成まふ字まふもまふべし
唯人ハ人の乃よりまふ介ハまふ人ハまふ人ハまふ
父子夫婦兄弟朋友此乃まふ此乃まふをまふがまふて
勤まふふまふ介乃法をまふ聖事ハまふいまふままふ仏まふハまふ

ほろし父子兄弟は熱意を捨て夫婦の大倫を
改まらば礼おろしくかく及べば所ハ悉く又
倫を破るもいへども釈迦ハ大聖人にて此法
を以て天下を治めバ源まき意味いべしを交
ハ仏家ハ但せき唯今日此上は用いざと
中流事母て以て免めも角少も天下を治むる
乃が才一にない

答老莊の説を問人

一 老莊の説中華めてハ仏法とお並び整ん

あして儒者も其説は惑をされ政を乱す
世は傷むる事法書ハ孔然らば家も小ハ
其害百が一其宗とする不ハ天地自然に
理をさし造化の功を大なる人乃るを
其の徳を軽んど事物を知るの虚を重じ
人もなく家もかく又天地もかくと打拂ひ
人上を傲泥の如く小凡又常を真穢の如く
嬌ひ氣を養ひ生を保つ事を要し天理
の極を尽し人欲は私一毫もなく其の極

明鏡あきかみの如ごとく一塵いちじんは深ふかく一疵いちしの拵おのひ
 へきなく是これを名付なづく愛あいの素人しゆじんといひ其
 言こと高たか大だい不ふ説せき来きるといひ一ひとも己おのれが一いつ方ほうふりきて
 二ふたまし去さよるしよび王道わうだうを去さるらさゆや功こうハは終はつ
 一身いつしん故ゆゑ安やすむらに足たりりま害がいハは天下てんか此こゝ乃すなはちを傷やむ
 小せう至し派はい今いま適とく老らう莊しやうをも駭おそふ者ものをあんらぶは世よ業ごう
 を投なげり小せう正しやう律りつをむ欲よくとえへ身みの安やすり
 じ半はんを好このむ仁にんをあ着ちやく念ねんとえ美みとあ偏へん執しやくと
 礼らいとあ飾しやくとえ智ちとあ私しとえ唯ただ天てん地ち自じ然ぜん

の理りれおかしと一口ひとくちよいいくく七情しつじやうの起おこる
 も人ひとは具そなへる理りれおかしとえ流りゅう水すいれおかしと
 云いてながらいくままゆめれは法ぽうをあんらぶは懦じゆ弱じやく
 横よこらる者ものは切きて付つけられば悪あく説せつあるはたは横よこの
 者もの適とく一いつ人ひとあらばもては教けうがせ上じやう子し万まん人ひと
 子し流りゅうとあらばいくままゆめては人ひとハは天てん地ち自じ然ぜん
 の理り乃すなはちを外がいかし何なに秘ひ仁にん義ぎのはれとあらばも
そのしよ性しやう悪あくあるは者ものハは自じ然ぜん其その性しやう善ぜんあるは者ものち
 自おのれ吾われみて文ぶん子しおおかしとえ以もつては是こゝをあんらぶ

こぼりハ水ハ火ハやんとし火をあるやんと
すりに均いしいろり変せんと大變しに云
者あり是ハ自暴自棄乃人として并え成
以理を暗くし及成消し人を傷そひ己を
棄するり泉者し是を海さバ水と火ハも
性の物を人比性ハ二ツありハ善悪
又二ハありハ今善悪をふセバ善なりハ
改ハバ善なりハ或ハ是一なりハ表裏
ありハ火と水とありハ物あり執ハハありハ又

変の功ありハ善ハ小善ありハ習進りハて
久シきハ大善よりハ小善ありハ習進りハ
事久ければ大善とりも善も改ハバ善
ち善と善は金く善の善悪とりいハ不
し亦彼自暴の人と善ハ善とありハ外
性の善ハ唯己が善なりハ此ハすハに善なり
よハ言ハりハ見ハへハ成ハ成ハなりハ自
たハはハ縮ハを減小ハ一筋をすハぬハ
いハもハ積ハ功を積ハ終ハ小ハ一匹と是ハなりハ

野經抄卷二

て乃よまると又一寸二寸を伐破して縮と
 成べしは是自暴し又棄て織むんば
 一生縮と成べしす是自棄し然る時ら
 性の善悪も自然乃理もいふべしして勢切
 らる終ぬら人多るべし彼在るはた孝礼を
 とびつうがう家業は骨折事成いやう者
 早く頰き安し唯人ハ人の乃成けし死
 て後小をむべし何の亦は求る事ハ何ん
 答同性吾人

一 忍按むるに人の性の物小感ドて稟可なり
 由一奇き事ありんば君子は之を忍ぶる
 何里別柔ありて廣きもの狭きもの寛
 約しきものはよかしく彼小ハ忍ぶる
 習ふて得る者ありんば君子は之を
 変つて上代り今と一人も均し死者ハ
 有らぬ孟子曰惻隱心者仁端也羞惡
 心者義端也辭讓心者禮端也是非心者智端
 也といふは性ひとも此四端ハ

人必曰一交を以て性ハ善ことし此
四端ある人ハ仁義礼智成るは本來の
善を委ふまじなり此四端ある者ハ善を
善と好ん一惡を惡と憎む者ハ善を
小人あらば四端なき人あるべし四端ある
者ハ性ハ善なり事ハさぶべし宋
儒の説孔子乃性お近しと宣ハ氣質
の性ありて孟子の性善ハ本然乃性云
と説し此見ると孟子既ハ孟子の知たまふ

本性といふ物あらば孔子何ぞ知るべし
むる氣質の性ハ本然乃性ありハ四
端も與るべし孟子に四端を以て性善
の徳とす所ハ氣質ハ性ある事ハさ
ぶべし此ハ本性氣質乃性の論起す
より學同向上に於ていふく探るいふく鑿す
言く上るは孔孟の公ハ善く事ハ
あつたき一性の善惡をも論ぜし唯日用五
倫乃乃をりハ堯舜孔子ハ善く事ハ

孔子の教を先とせしめて之を性学と光陰成費いなきまよ迷へるよあはれ性善もい事なり唯仁義のこ

答性と理と人を同

一性ハ必ず事れしんハ必ず有るありんハ物ニ應じて動く理ハ動く事れし物あるは必理あり加あるにのるむんハ理を知らんとも性とも去らず極めく性とい者ハ乃の裏(まろり)理をい者ハ乃れ枝

を存んとい者ハ乃れ成後ふいづ道も的面より成る事うし孔子ハ此ニ乃物をいんべいて日用ニ倫乃乃と教給ふ孔子を低しやまべうし性学理学ん学をさしとすべうし古ハ孔子の乃とより今ハ性学理学ん学ぬくありされハ倫とハいふべうし唯いしと乃ハ又倫とハ孔子書ハ論語ニ承べうし

論懦弱の問

一或同人^{あつしよ}なりてハ人^{ひと}れ^を勸^{すす}むより^{あひあし}と
の^ちれ^ん後^ご一^{いつ}侍^{しやう}り^ぬ然^{しか}此^こ生^{せい}質^{しつ}懦弱^{じやくじやく}也^{なり}
て^かけ^ひ難^{がた}く^き見^み以^も此^こ心^{こころ}を^ふ励^むさん^やハ^い示^しと
答^{こたへ}曰^い世^よ乃^も十^{じゆ}人^{にん}も^七八^{はち}人^{にん}と^此病^{びやう}あり^是元^{げん}氣^き
の^ま虚^{きよ}一^{いつ}は^い母^ぼ々^々、^実病^{びやう}の^ふあ^づに^既ア
も^あろ^う池^い又^{また}出^でて^けい^げん^とい^ふる^は
上^うハ^他の^か力^{りき}も^及よ^びま^さ独^{ひとり}ハ^の道^{みち}也^{なり}も^考が
よ^此人^{ひと}元^{げん}氣^き虚^{きよ}一^{いつ}は^い母^ぼ々^々の^志ある
ハ^胃乃^も氣^き々^々と^交る^ま茶^{ちや}以^も煖^ぬめ

なれ^ばれ^びま^ま々^々一^{いつ}は^い母^ぼ々^々の^補藥^{やく}を
母^ぼ々^々乃^も灸^{しゆ}治^ぢ息^{そく}一^{いつ}は^い母^ぼ々^々自^じ身^{みん}を^保ま^んあ^る
ハ^務母^ぼ々^々乃^も誠^{まこと}の^人なり^ハ人^{にん}事^じ疑^ぎひ^あま^らず
す^早竟^{まつ}乃^も此^こ心^{こころ}を^き々^々仁^{にん}義^ぎの^乃此^こ也^{なり}
々^々其^{その}外^{ほか}向^{むか}上^あま^る物^{もの}の^々に^見々^々一^{いつ}は^い母^ぼ々^々々^々
々^々山^{さん}嶮^{けん}一^{いつ}は^い母^ぼ々^々地^ち坂^{さか}を^おお^ろこ^ぐ々^々々^々
一^{いつ}ハ^母は^あづ^み乃^もハ^事任^{にん}寐^み々^々起^おこ^るれ
る^も乃^も乃^も乃^も々^々々^々ハ^母は^あづ^み一^{いつ}は^い母^ぼ々^々々^々
々^々皆^{みな}も^善と^譽一^{いつ}ハ^母は^あづ^み一^{いつ}ハ^母は^あづ^み々^々々^々
々^々一^{いつ}ハ^母は^あづ^み一^{いつ}ハ^母は^あづ^み々^々々^々

處し此善惡分明あるんより尺ハ物を慫し
 隠むんや人々や羞悪むんや人々や羞
 仁義の端あり此二ワ此物を物毎子推及し
 て勅るとし推及しとハ其慫隠むんを度
 く人よ及し其羞悪むんを侮く己身に
 及しぬめ物さふ事久しれば仁義と成り
 ひんきて若しむことれしれば乃は一且不
 成ぶし補茶を困るごとく成へし過ハ急
 病の如し改ふ不憚事なりれぬ事あり

すも先んけて尺始へ

去私

一又同由者のそくんを尺にて中ハ去一ワ
 細他を中く尺ハ一に義をさふち隠す
 て公よあり悪ま事ハ恥は耳目に遯ると
 し其方に奪くれち私をさふ事ハおぼく仁
 義をさふ事ち十ハ一ワ二ワ母く悪ハ去一善
 ハ返きて中ハ此人の交用いふ較して中ハ取
 交ハ 答曰尤ある由尋めてい尺事あり

の欲は奪^{うば}て仁義の心を失^うふと孟子
 の放心と云^いふを^いひ^いふ^いは^いれ^いば^い今^{いま}仁義を^いん^いを^い
 下^{くだ}よ^{くだ}又^{また}或^{ある}は^{ある}欲^{よく}を^{よく}聴^きく^きと^と一^{ひと}悪^{あく}と^とは^は知^しら^らず^ずな
 しく^{しく}中^{ちゆう}べ^べ其^{その}時^{とき}是^{これ}を^{これ}堪^{かん}忍^{にん}ぶ^ぶは^は亦^{また}ち
 人^{ひと}よ^よあ^あら^らび^びを^を強^{つよ}く^{つよ}い^いは^は諾^{だく}堪^{かん}忍^{にん}ぶ^ぶを^を
 忍^{にん}ぶ^ぶと^と己^{おのれ}を^を克^くと^と中^{ちゆう}て^てま^まを^をに^に放^{はな}す^すん^んに^にし^しる
 仁^{にん}義^ぎの^の公^{こう}域^{ぎく}を^をへ^へい^いぢ^ぢく^くる^るゆ^ゆに^に扱^{あつか}ふ
 克^くん^ん強^{つよ}ま^まる^るは^はい^いよ^よく^く人^{ひと}の^のみ^みら^らと^とう^うふ^ふを
 礼^{らい}を^を以^もて^てん^んを^を保^{たも}と^とす^すの^の如^{ごと}く^くあ^あら^らむ^む反^{はん}事^じを

堪^{かん}へ^へあ^あら^らむ^むは^は反^{はん}事^じを^をか^かれ^れば^ば又^{また}と^と見^み欲^{よく}を^を聴^きて
 も^も耳^{みみ}目^め小^{せう}慮^{りょ}を^をし^して^て保^{たも}と^とす^すて^て迷^まふ^ふ事^じは^はな^なく
 あり^{あり}て^て中^{ちゆう}の^の不^ふ冷^{れい}を^をし^して^て此^{こゝ}を^を忍^{にん}ぶ^ぶは^は何^{なに}ゆ^ゆに
 たり^{たり}と^とう^うと^とな^なる^ると^と交^ま用^{よう}も^も入^いら^らず^ずは^はし
 此^{こゝ}を^を忍^{にん}ぶ^ぶを^をう^うと^とし^して^てな^なら^らず^ずは^はま^まを^をき^きと^とう^うと^とな^なる^るの
 け^けと^とし^して^て保^{たも}と^とす^すは^はい^いは^はだ^だ唯^{ただ}及^{およ}ば^ばり^りと^とし^して^てぬ
 め^めて^ては^はな^なく^く自^{みづか}ら^らぬ^ぬ小^{せう}て^てん^ん去^き程^{りやう}に^に急^{いそ}ぐ
 か^かが^がも^もも^も懦弱^{じゆうじやく}な^なら^らず^ずも^も一^{ひと}悪^{あく}を^をま^まも^もら^らず^ずま^まを^を
 ん^んが^がま^まを^をく^く見^み給^{たま}へ^へ終^{つひ}小^{せう}は^は其^{その}效^{こう}は^はべ^べし^し此^{こゝ}程^{りやう}を

守てとるハ成すべし此と云ふ人ハ自家を
を捨るなりとは聖人出づる教へあり人
小はかす向ぐ者度此英才能素一給へ
為人謀而不謀我為云事

一乃を切んと云ふは為人謀けて家あり
謀ふべし人のためよく云ふハ仁に誠あり
家ありめらるるも悪し今その大概を云ふ
先君よ對して己を棄て懐きて去んで去るの
為を云ふべしと云ふ一也も立身要る此會

あはは論よく禄を望むしお素のこめは
うよくハ國家安んずん事を欲すも勿論也
職を務むる事ハいよ及ぶい素るしは
ハ身と捨る事ハ素を以て好ハ身を忘
る素い凍容らむと依時ハ身黜るはして
憤らひ唯素ある事也知く身ある事を
忘るは為君謀而為我不謀し侍臣
ハ是よ及して素あるあははも凍るもの
乃理を付て其るを捨るは法る者あり

ハ天を誅むと謀りて決し胡々王天の氣
 入む半城巧と功なくして貴祿を貪り
 或ハ聚斂して國家の強儀を顧み君を
 誦む已も又聖王あれ是天忘りて己
 が方に謀る是を國家に賊とし非常の盜ハ
 限の王此城ハ限れ終ハ國を滅り身と
 亡して後よふべし
 一君乃臣を責ふ事も己を忘りて國家を
 民のこめよとべし苟も方のこめよする時

かん。従ふ者を責斂しんふ志とては
 忠臣控ゆる時ハ賊起り内礼とて國を
 廣く國家を安んずして天独安んんとす
 ハ裸身母く荆棘乃中ふまらるが如く何ぞや
 天にそはゆん此天ありて此臣ありて天
 凍る者を嫌ひ論ふ者哉夫ハ天下通例乃
 大病く若凍を容るし天ありは竹の事ハ
 ずし知べし凍臣容るは天の事ハ
 然るは是ハ舜ハ土民より帝位小嘗て終る程

の聖人ふまじも同事好くたまひ下れ
 詞をも矜然く比紂ハ諫を拒む初めに四
 を滅し得失大小留あらずそれ悉くも
 賢はそび能を擧諫を容身を脩く百姓
 故安ぞ是身を忘るく國家は為る謀るこ
 美此けいひがしもあつば悉く故べり此ん
 一夫者ハ己を忘るべきの言才一此身一毛も
 親より交じ故不ちけり日バし王祥が氷小伏て

魚を求め郭巨が子を埋まんとして金の
 釜はゆぐるちど毒淡小似たりといへも孝
 の至誠ある若よ何んば知べり比はして
 比と申ハ叶ふべり是親ある事を知り
 身ある事故忘るれしお平生者のんを
 ハ親のんを能く遠ざる中をぶとい勢
 よとありは勢め持べとありバ比は起りよ
 とありは翺起一寐してありバ寐の事も
 比と比は起りよとを忘るる比又こが為

一 謀る者ハ人の傳は存樂一 夜を文一
 刻寐し 妻子女も笑ひきこふこといハ
 親女は不人相一 己が好む事ハ身のくは
 おもも顧び親ハ一寸乃 治仕もせび己ハ
 能く合ひ 暇小 美親の 胡夕ハ 向くも
 見び 旅へ出て 永逗ぬ一 大酒淫乱 悉く
 親の苦勞を せんか ぐは 拵ふら 不孝も
 の小ハ あらびも 此内一リ あらバ 不考れ 罪
 遁ふへく び 是ハ 身ある 事 を 去り 親

一 一 子よ 對して 人の子の 為なり 謀る 己を
 忘るる 事なり 且ども 内を 省む 悉く
 己が 為る 子ハ 家 亂ん 抱く 居る 左 一身 成
 難 且 故 親の 己め ば び 子の 為 己
 己く 己が 為 なる 事 知 べし 子 を ぶ 人 とな
 親と 己と 故の 人 なる べし 上 子 少 老 惜
 る こと 是 子 ち ども 家 人 合 され 恨 み
 あ たら ども 家 人 合 ば 屯 一 同 子 の

中故見^{ひい}原^{まき}して兄弟^{あつそい}争^をを愛^{おこ}さし親^{おや}
 と係^{くわが}若^{わか}親^{おや}とて^い信^{しん}むべし子^こら若^{わか}はとめて
 親^{おや}の心^{こころ}改^か初^{はつ}におたまたまへお祝^{おこ}い係^{くわが}者^{もの}乃^{すなは}己^{おのれ}
 を忘^{わす}れしと^いも^いし^いま改^か悔^{くわい}し^いて^いも^いせ^いび
 返^{かへ}り^い係^{くわが}を^おな^いへ^いび^いあ^いに^いる^い改^か悔^{くわい}を^いび^い見
 せ^いび^い何^{なん}も^いき^い人^{ひと}に^い到^{いた}り^いま^いあ^いの^い子^こを^い法^{はつ}の^い人^{ひと}に^い
 せん^い事^{こと}を^い行^いふ^いと^いい^い是^{こゝ}己^{おのれ}を^い忘^{わす}れ^い子^これ^い為^な
 よ^いし^いる^いこ^いし^い子^これ^い生^な實^{じつ}ふ^いよ^いに^い所^{ところ}何^{なん}も^いは
 それ^い改^か悔^{くわい}し^いと^い養^{やしやう}育^{いく}い^いべし^いよ^いま^い不^ふ出^{しゅ}す^いれ^いハ

一^い何^{なん}も^い消^{しょう}る^い物^{もの}し^い世^よ上^うい^いや^いも^いん^いと^い此^{こゝ}
 事^{こと}し^いよ^いに^い事^{こと}を^い措^{そく}く^いあ^いま^い事^{こと}を^いし^いら^い此^{こゝ}に^い
 戒^{かい}む^いる^いに^い此^{こゝ}ハ^いん^いよ^い儼^{げん}出^{しゅ}来^{らい}く^い尚^{なほ}何^{なん}も^いく^いも
 衰^{おと}ふ^いて^いハ^いよ^いま^い事^{こと}を^い陰^{いん}に^いて^い事^{こと}を^い事^{こと}を^いぶ^いに
 物^{もの}を^いり^い是^{こゝ}隠^{かく}し^い飾^{しやく}の^い始^{はじめ}を^いな^いく^い此^{こゝ}に^いら
 よ^いく^い思^し惟^いした^いま^いく^い
 一^い妻^{つま}よ^い對^{たい}して^い己^{おのれ}を^い忘^{わす}れ^いす^いと^いハ^い妻^{つま}ハ^い子^こ孫^{そん}お
 続^{つづ}の^いこ^いめ^い且^{かつ}ハ^い父^{ちち}母^{はは}俸^{ほう}糧^{りやう}乃^{すなは}こ^いめ^い小^{せう}娶^{めと}る^い物^{もの}を
 ハ^い金^{かね}く^い己^{おのれ}の^いこ^いめ^いよ^いあ^いの^い強^{かう}かる^い者^{もの}ハ^い己^{おのれ}の^い淫^{いん}

樂のこめくろりうふく娶るゆへをさし正に
 首玉に繋ぐまは礼さうく口舌後びを不
 孝の場是よりおこほ叔父の己を忘れて妻
 の為は得るこいをさしたきを堪へけけ正
 くよ紀事をあへ孝行をためし女乃乃を
 おしひを妻乃いあふすうこりお物し己の
 為小をさしおし妻小従つてはとほる極
 情ましく人口乃とくあうびとなりれ事
 恥しくしや

一 夫小對して己をりすはとまこい才一舅姑小
 孝を尽し何事と夫乃ん詞を交る初め
 榮耀をうてびさうし舅姑夫の二女は
 くの系を公人の如く勢利を身を志して
 貞哉そのとりお己が為小謀る女は夫了
 せやうとを喜ぶがしもをせざし眼は憤
 了舅姑や夫の非故挙く己が親小ゆせ誰
 孫を重し又招へ嫁してもそを通りし其して
 女乃表道具ら先化粧して飾るをものこ

手よりゆへん河も飾のよして生質れ味ある
者も此飾よんを奪はしく平生は實なる極
小てしゆさこの時、實れ一なり而人の為
に謀るや、めくもこが、よくよくして、
ろより起るあ、おのじは、誓己小、さ、さ、
者を、喜ひ、従、い、さ、ふ、もの、を、憎、が、通、例、入、ま、
婦人の、毛、と、く、人、は、憐、む、事、あり、い、な、ま、
る、じ、でも、お、の、じ、が、氣、よ、逆、小、は、い、ら、返、し、て
憎む事、男子、れ、お、よ、ぶ、事、よ、何、し、ん、必、事、の

礼後言表裏多くハ女より起さる此
情を合点して男中も、噂、女、あ、ど、ど、した、の
フ、い、み、ふ、ら、ん、バ、此、害、通、る、べ、う、の、い、れ、ご、女
小、劣、る、男、ハ、多、一、男、に、培、る、女、ハ、希、く、女、
ま、ま、と、所、男、と、夫、を、尻、子、志、く、女、ら、何、事、を
よく、そ、ろ、し、り、ふ、と、し、取、に、足、ら、む、
一、兄、ハ、才、の、為、を、い、ハ、才、ハ、兄、の、為、を、い、ふ、ら
己、を、り、す、い、なり、是、小、裏、後、ある、兄、才、ハ、
よ、己、の、為、を、い、り、謀、る、事、か、督、財、宝、は、争、ひ、て

止止は止を招り見て是と見や非と見ん
 や此の如く家兄才中を人の見る事も加
 くこそあめと省て讓王合争をマ心
 べ一喻人上恥く表向遠て通る世
 誠ふらん内んハ犬の咬合馬此端合よ話
 事こといはゆど是己が為す謀る小欲す一
 暗されう肉は分る兄才を傷るハ畜類
 同あるむ己が欲の限以て争ふハ
 是らりも或ハ不仕合又ハ事をみく人乃ハ

ひかくばいはとの業もと保ん兄ハ才
 讓王才ハ兄小ゆづりかば宝はもも大
 事の業此上ハいづきハ禁むづいあそい
 恐るべきら恥ぢぢ

一一朋友ハ又倫の内も交り繁さゆた日日ハ
 乃の上をまぎ地礼しそれ朋友の交ハ家
 恥を責く人乃非を責ハ人乃為す謀りて
 事ハ謀る人吾あらば必引く人を
 あらば必引く陰言いふんや面をあら

譏を耻しむる事れく信をまつく約を
堅くし礼をまじふる事ら疎うせむを
を勞く事知き事なはあまき事ば辱き
人の能を社こまひ忍ぶるは侮どるにま
離るるをば憐れ介抱し座正る時ハ人
よ此取へよまより此ハ人よ此取をよま
合ありハ人よおほくあへえ家ありんじ
少き物ら人小與へく家ハ欲せし暑き時ハ
人の涼しくん事とこひ寒き時ハ人の暖

あん事と欲し安き事と人小勅さやあハ
左候ふる事以勢め何事し人を先つ
正る人との為小謀く忠ことりぬ事なり
内ハ安き宅に居りし海を以て如し
人友の交りハ一服力を入り先何事し度
羞れく疑ひなく何事一の事めても決て信
事疎せんせし患も甚し其小一生を樂し
死を助するあまき事なは凍め凍必用い親
しめ礼を礼とせん頃更も離るる事是

をん友とりふん友まで又倫の乃るる事
可ん友なる人必乃もちま人あべ一是
を以て師の甚れ你きことおして知へ一且の
飲食友ら父乃友藝の友甚初一まア
ふまじし己が為よ謀るゆ一終を全正ら事
お一唯乳く一まハん友し

野綱茗話卷二終

あひび
文庫印

